

# HS ニュースレター

## 春季号の内容

「東日本大震災のお見舞いと新たな決意」飯窪

2月例会：中国人が学ぶべき日本の「おもてなしの心」

会員より：「災害復興開発事業を急げ！」小出

「他人を思いやる心と地域復興」宮尾および会員報告

## 東日本大震災のお見舞いと新たな決意

**今** 回の大震災は、現時点での死者・行方不明者の数だけ見ても、阪神大震災の規模をはるかに超えており、巨大な地震と津波のもの凄さを表しています。犠牲になられた方々に対しまして、お悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

さらに、今回の大震災は、福島第一原子力発電所が被災したことにより、原発事故が起きてしまったことが被害の大きさを増幅させました。事故後の対応も東電・政府とも右往左往しているようにしか見え、日本の原発事業に対する過去からの取り組み方に問題があったことを露呈しているようです。

しかし、放射能漏れを起こしている現場で、連日身体を張って復旧活動を行っている自衛隊・消防隊員・東電職員の方々には心より敬意を表したいと思います。このような人々によって、私たちの日常生活は支えられているのだと、つく

づく感じました。

今私たちができることは限られています。しかし、一人ひとりが少しでも募金する、節電に協力する、無駄な買占めなどは行わないことです。直ぐには困難だと思いますが、できるだけ普通の生活のリズムに戻していくことも必要です。過度に自粛や節約が進んでしまえば、日本経済全体がさらに縮小してしまいます。

少しでも早く被災地が復旧・復興できるように私たちがそれぞれに応じた努力をすることが必要で、初めての経験となる計画停電も行っています。皆で協力すれば必ず乗り切れると確信しています。ハートストック研究会全員で頑張りましょう。

なお、3月18日にハートストック研究会会費から5万円、二木さんを始めとする有志の方々から5万円、合計10万円を義捐金として一番ご縁が深い福島県に寄付させていただきました。ここに改めてご報告させていただきます。ご理解ご協力ありがとうございました。

ハートストック研究会幹事 飯窪光隆



ハートストックからのエール

### ハートストック研究会とは

「ハートストック研究会」は、モノのストックだけでなくハート(心)のストックを豊かにするにはどうしたらいいかを追求する人たちの集まりで、誰でも入会できます。

東京や地方さらには世界各国の生活や仕事の問題を、土地や住宅といったモノのストックのあり方から、人の考え方や気持ちといったハートのストックのあり方まで議論して自らの心を豊かにすることを目的としています。

### 2月例会：中国が学ぶべき日本の「おもてなしの心」

HS研究会の定例会が、2月23日に、三徳八重洲ビルの新しい会場で開催され、趙霞さんによる「おもてなしについて」のプレゼンがあり、それを巡る質疑応答が行われた。

趙さんは、日本人がお客様を分け隔てなく心からおもてなしする姿に、日本を訪れた中国人が感激することを指摘。これはもともと中国人が持っていた仁義や礼儀といった美徳を日本人が受け継いで高めた結果であり、その一方で、中国人は文化大革命の影響でそのような心が

失われたという。より最近の中国では、お金儲けに徹するあまり、この点でますます日本から遅れてしまっており、物質的にGDPで中国が日本を抜いたといっても、この心と態度のありようにおける差は広がりこそすれ縮まるようには見えない。

したがって、これから中国に必要なのは、トラ(タイガー)ママのような子供が競争に勝つための教育ではなく、他人を大切に思い、弱者に手を差し伸べるような道徳教育が必要であろうと、趙さんは結論づけた。(2/23:HSブログより)

# ハートストック研究会会員より

## 災害復興開発事業を急げ！ 小出 修

一般の大津波により、東日本沿岸部は壊滅的な被害を受けた。宮城県亘理町では高さ15mの津波が押し寄せたという。被災地の一日も早い復興をめざすため、筆者は財団法人区画整理促進機構の専門家であり、かつ昨年も東北経済産業局の委託で地域経済活性化のための戦略的企業誘致に関する調査として、震災前の県、市、および中核的な地域企業とマザー工場を行脚した企業立地の専門家の立場から復興事業策を提案したい。

復興は働く生産の場も住まいも高台に移すべきである。万里の長城のような堰堤を築く方法もあるが、巨費がかかるうえに、景観や沿岸利用にマイナスである。

①沿岸部の形状が、丘陵地が入り江を囲むような地形の場合は、丘陵部を国が買収して高台を造成、新町を移転する。津波で被災した入り江沿岸の土地(元町)と交換し、農漁業以外には土地利用しない。

②沿岸部の形状が、平坦な低地の場合は、住まいと屋内の働く場は、人工地盤(道路・集落・生産施設)と中高層の建築物に限定する。平坦部は農漁業以外には土地利用しない。人工地盤は国が造り、地上の平坦地と交換。これら人工地盤と中高層建築物ごと輪島のような新町とし、高架道路でつないで相互に連結する。

つまり、人工地盤と高台移転先開発を組み合わせるべきである。また事業手法の要素技術として、次の3つを掲げたい。

①産業的にはサプライチェーン・マネジメントを震災復興事業に合わせて東北や北関東に根差したい。②人工地盤の開発事業では、60年代に坂上市で実現、約1.2haの敷地に人工土地を造成することで塩田スラムである裏宅地と表通り沿いを繋げ、立体的な利用を図った。③首都機能移転で、行政と民間(建設会社、エンジニアリング企業)は色々な開発手法を共有している。その経験者を募りたい。

## 他人を思いやる心と日本の地域振興 宮尾尊弘

本ニュースレターの1面にもあるように、2月23日に開催されたHS研究会の定例会では、まず趙さんから日本人の他人を思いやる心についてのプレゼンがあり、それに引き続いて奥住さんから日本の地域振興の問題提起がありました。

その2月の段階では、趙さんが強調した日本人の素晴らしい心と態度に中国人が気づいて学ぶべきという結論も、奥住さんの問題提起である日本の各地域が全力で自分たち自身を活性化する工夫をしなれば地域は減ってしまうという警告も、頭では分かるものの、その実感がもう一つわかなかったという人もいたのではないかと思います。

ところが、その会からわずか2週間ほどで起こった東日本大震災が事態を大きく一変させました。死者と行方不明者が数限りなく、地域が土地もろとも消滅するほどの被災地の惨

状の中で、老若男女を問わず日本人がお互いを思いやり、黙々と協力して苦難を乗り越えようとする感動的なシーンが国内外に報道され、大きな賞賛の的となっています。これに感激した中国人の大多数が日本に対する意識を変えたとも伝えられています。

また地域振興については、まさに被災地を中心とした東北地方、またその影響を大きく受けた関東地方が、この苦難をどう乗り切って地域の復興と将来の活性化を図っていくか、もしそうしなければ衰退は免れないという予測を今回の大震災が現実のものにしたといえるでしょう。

今後は、各地域住民のお互いを思いやる気持ちを大切にしながら、震災からの地域の復旧と復興をどう進めていくかが、われわれ一人ひとりに課された課題といえるでしょう。

### 会員からの報告(MLへの投稿より):

**阿多(3/18):** 今回の経験から学んだのは、①電話は公衆電話のほか、PHS なら通じたこと、②車渋滞は想定以上であり、ガス欠を起こしてしまうこと、③ガソリンスタンドはあっても停電地域だとモーターが使えず油を入れられないこと、④当初は圧倒的に下り方向の渋滞が激しいが、そのうち上り方向も増えて渋滞が渋滞を増加させたことです。

**中井(3/30):** 天草と関係の深い島原では、1793年4月1日に眉山が噴火と地震で崩壊し、高さ20mの寛政の大津波が発生しました。有明海沿いの一帯は全滅しました。津波による天草の溺死者は343人で、熊本平野でははるかに多くの方が亡くなりました。徳川幕府は島原、天草等の被災地について直ちに情報を収集し、できる限りの支援をしました。現政権はこの教訓を生かすべきでしょう。私も歴史を調べて、標高28mの高台を住まいとしています。

### 4月定例会の中止と自由参加の会への切り替え

4月12日(水)に予定されていたHS研究会の4月定例会は、東日本大震災の影響、特に原発事故の成り行きが不透明の中、急遽中止が決定されましたが、過度の自粛はかえって人心にも地域経済にもマイナスになることを考えて、当日は有志が八重洲のいつもの二次会の会場に自主的に集まることになりました。

#### HS ニュースレター

年4回発行  
ハートストック研究会  
発行人・宮尾尊弘

住宅や土地といったモノのストックだけでなく、人の考え方や気持ちといったハート(心)のストックを豊かにするための研究会のブログ:  
<http://hstock.blog90.fc2.com/>

ハートストック研究会  
2011年度事務局  
幹事: 飯窪光隆  
会計: 田淵千代子  
顧問: 二木憲一